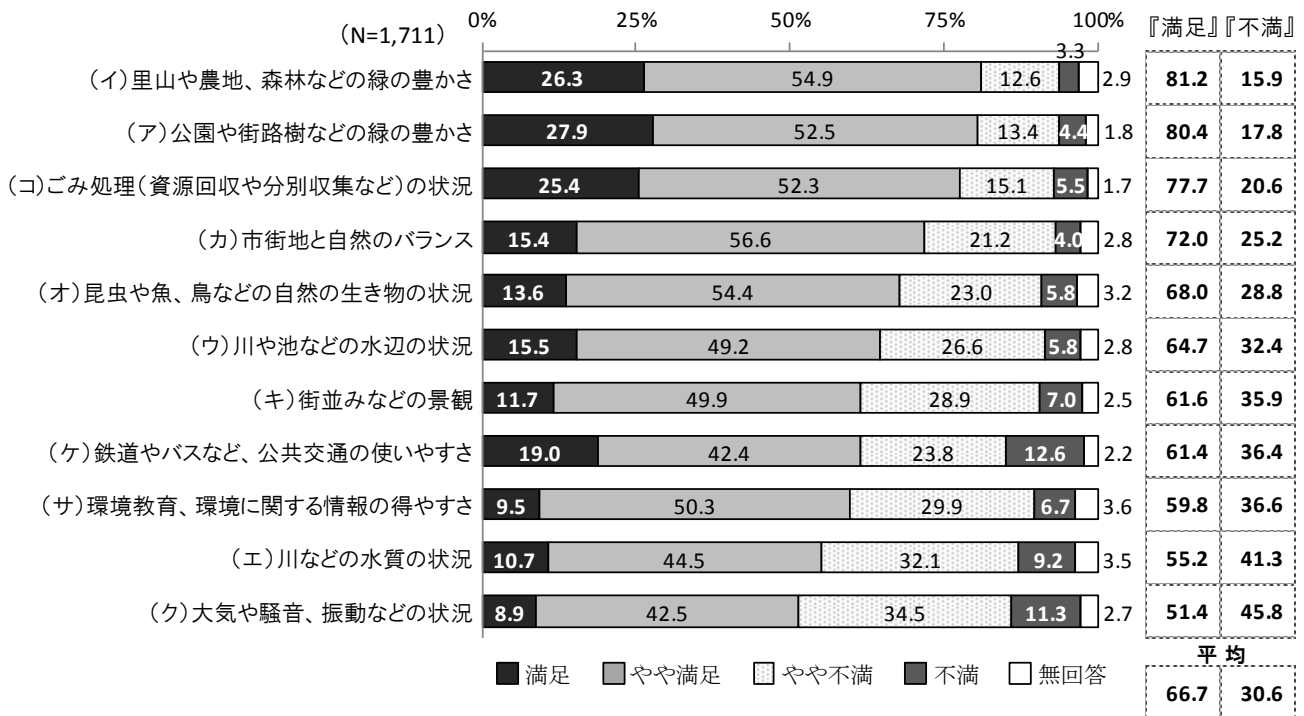


第3章 環境

3-1 周辺環境の満足度

「里山や農地、森林」「公園や街路樹」など緑の豊かさへの満足度が8割を超えている。

問20 あなたがお住まいになっている周りの環境に、次の(ア)～(サ)それぞれの事柄について、現在どのくらい満足していますか。(あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○印)



◆属性別特徴

【性別】

・「街並みなどの景観」の満足度は男性より女性が高く、「大気や騒音、振動などの状況」は男性の方がやや高い。

【年齢別】

- ・「ごみ処理の状況」の満足度は、60歳以上で高い。
- ・「川などの水質の状況」の満足度は、20歳代で4割半ばと特に低くなっている。
- ・「公園や街路樹などの緑の豊かさ」の満足度は20歳代と70歳以上で8割半ばと高い。
- ・「鉄道やバスなど、公共交通の使いやすさ」の満足度は20歳代と60歳以上で6割半ばと高く、30歳代でやや低い。

【ブロック別】

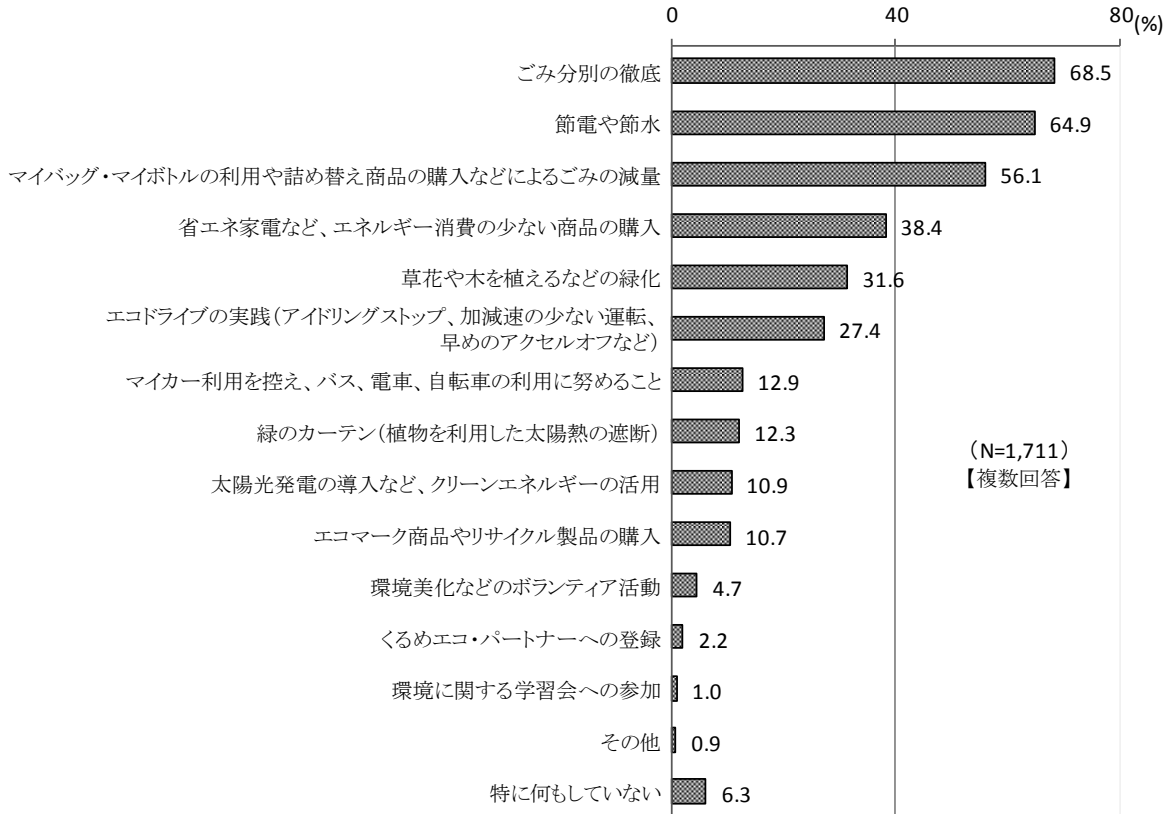
- ・「鉄道やバスなど、公共交通の使いやすさ」の満足度は中央部、中央東部では7割を超えて高く、東部Bで4割、西部Aでは1割半ばと特に低い。
- ・「川などの水質の状況」は北部A、東部A、南東部、中央部では満足度が6割を超えているが、西部Aでは3割半ばにとどまっている。
- ・「大気や騒音、振動などの状況」の満足度は南西部、北部B、東部Bでは6割を超えているが、中央南部では4割に満たない。

住まいの周辺環境の満足度 (%)															
	(票) 標本数	⑦公園や街路樹などの緑の豊かさ		①里山や農地、森林などの緑の豊かさ	②川や池などの水辺の状況		③川などの水質の状況		④昆虫や魚、鳥などの自然の生き物の状況		⑤市街地と自然のバランス			満足	不満
		満足	不満		満足	不満	満足	不満	満足	不満	満足	不満			
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,711)	80.4 (1,376)	17.8 (305)		81.2 (1,390)	15.9 (272)	64.7 (1,108)	32.4 (555)	55.2 (945)	41.3 (706)	68.0 (1,163)	28.8 (493)		72.0 (1,232)	25.2 (431)
性別															
男性	786	79.6	18.8		81.8	15.7	65.4	32.2	57.0	40.0	68.3	28.9		70.3	27.1
女性	925	81.0	17.0		80.7	16.1	64.2	32.6	53.7	42.3	67.7	28.8		73.4	23.6
年齢別															
20歳代	202	86.6	12.9		83.6	15.9	67.8	32.1	46.0	52.0	69.8	29.3		72.3	27.3
30歳代	280	79.3	20.0		81.1	16.4	68.6	30.7	52.2	46.4	66.4	32.2		79.3	19.3
40歳代	324	77.2	21.9		83.9	14.8	66.4	32.1	55.2	43.5	70.4	27.7		75.6	22.8
50歳代	300	77.7	21.6		80.7	18.7	63.3	35.0	56.0	41.7	69.6	29.0		70.6	28.3
60歳代	394	80.2	16.5		80.0	15.0	61.0	33.7	59.7	34.5	67.5	26.9		68.0	26.6
70歳以上	211	85.3	10.4		78.2	14.7	63.5	29.4	58.7	32.7	63.0	28.9		65.8	27.5
ブロック別															
東部A	122	84.5	11.4		91.8	5.7	73.0	24.6	64.0	32.8	77.9	18.9		81.9	16.4
東部B(田主丸)	109	76.1	21.1		85.3	12.9	64.2	33.9	49.6	47.7	75.2	22.9		64.2	33.1
北部A	156	88.5	10.2		89.1	8.4	73.1	24.4	68.0	29.5	76.3	20.5		78.9	18.0
北部B(北野)	107	81.3	17.8		86.9	10.2	70.1	28.1	58.0	38.3	70.1	28.1		79.4	18.7
中央東部	210	79.5	20.0		76.7	22.4	58.6	40.0	54.3	42.8	65.2	31.9		70.5	28.1
南東部	176	84.6	14.8		85.8	13.0	65.4	32.4	63.1	34.7	70.5	26.7		71.0	27.9
中央部	229	82.9	15.3		76.4	20.5	74.2	21.8	61.6	34.5	66.8	28.9		74.6	21.0
中央南部	293	73.4	24.2		73.1	21.8	60.4	35.8	46.4	48.1	60.4	35.5		66.5	30.1
南西部	145	80.0	18.6		83.4	14.4	61.3	35.2	53.8	42.8	71.0	26.9		73.8	24.2
西部A(城島)	68	69.1	29.4		70.6	22.0	39.7	57.3	33.8	63.3	54.4	42.6		57.3	36.8
西部B(三瀧)	96	84.4	12.5		86.5	10.4	61.5	35.4	43.7	53.1	63.5	32.3		71.9	23.9
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,711)	61.6 (1,055)	35.9 (614)		51.4 (880)	45.8 (784)	61.4 (1,050)	36.4 (624)	77.7 (1,329)	20.6 (353)	59.8 (1,023)	36.6 (626)			
性別															
男性	786	59.1	38.5		53.7	43.8	61.4	35.9	79.3	19.0	59.7	36.8			
女性	925	63.8	33.7		49.5	47.6	61.3	36.9	76.3	22.0	59.9	36.4			
年齢別															
20歳代	202	64.4	35.1		45.5	54.0	66.9	33.2	78.2	21.7	60.4	38.1			
30歳代	280	64.3	34.6		45.4	53.2	56.4	42.1	75.0	23.6	58.2	40.8			
40歳代	324	63.3	35.5		52.1	46.6	58.9	39.5	71.0	28.1	58.9	38.6			
50歳代	300	56.3	42.6		50.4	48.0	58.7	40.0	74.0	25.0	57.4	40.4			
60歳代	394	61.7	34.5		56.6	39.0	64.7	32.5	83.3	14.5	61.2	33.0			
70歳以上	211	60.7	31.8		55.9	36.5	64.0	29.8	85.8	9.4	63.5	28.0			
ブロック別															
東部A	122	74.6	23.8		59.0	36.9	58.2	40.1	80.3	18.1	63.1	35.3			
東部B(田主丸)	109	55.9	42.2		62.4	34.9	40.4	57.8	67.9	31.2	56.9	39.5			
北部A	156	70.6	27.6		54.5	42.4	64.7	33.3	80.8	17.3	63.4	32.1			
北部B(北野)	107	68.2	29.9		64.5	34.6	50.4	47.7	73.8	24.3	65.4	31.8			
中央東部	210	57.6	41.4		47.6	51.0	72.8	26.2	79.1	20.5	59.1	39.5			
南東部	176	60.8	38.1		52.3	46.6	59.7	38.7	77.9	21.0	53.5	42.6			
中央部	229	60.7	36.3		46.3	51.1	76.9	21.4	82.1	16.2	63.7	32.3			
中央南部	293	54.3	41.6		38.2	57.3	64.5	31.4	77.5	19.8	56.0	38.9			
南西部	145	68.3	29.6		65.6	32.4	60.7	37.9	78.6	20.7	65.6	31.7			
西部A(城島)	68	57.4	38.2		53.0	44.1	16.1	80.9	67.6	27.9	50.0	47.1			
西部B(三瀧)	96	58.3	37.5		46.8	49.0	60.5	36.4	77.1	20.9	60.5	33.3			

3-2 環境を守るために実践していること

市民の9割以上(92.8%)は、環境を守るために何らかの実践をしている。
 日常生活で実践していることは、「ごみ分別の徹底」が68.5%で最も高く、続いて「節電や節水」が64.9%。

問 21 あなたは環境を守るために、日常生活でどのようなことを実践していますか。
 (あてはまる番号にいくつでも○印)

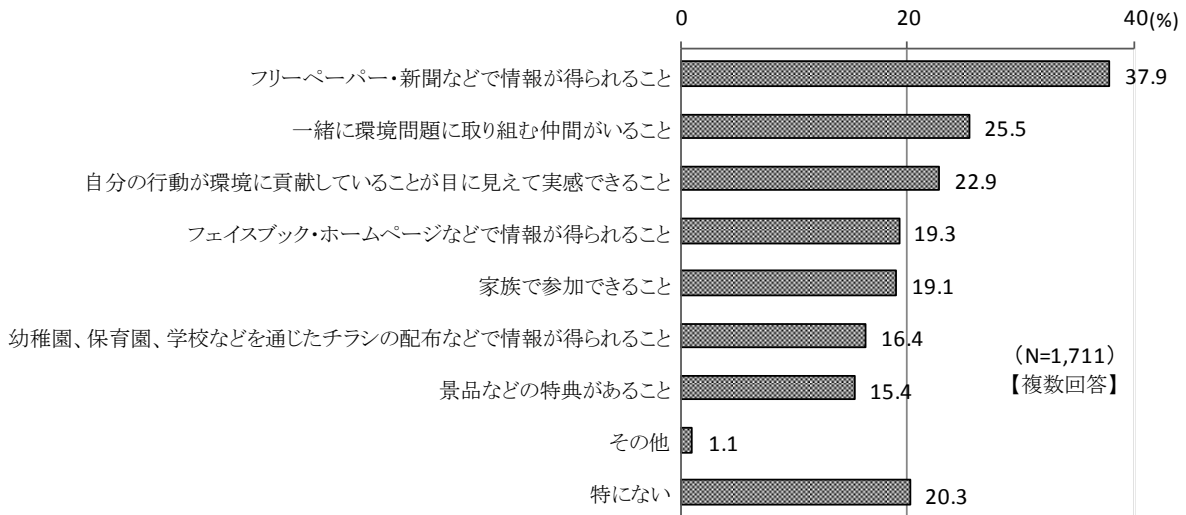


3-3 環境に関する活動に参加しやすくするために必要なこと

環境活動に参加しやすくするためには「フリーペーパー・新聞などで情報が得られる」が約4割で最も高い。

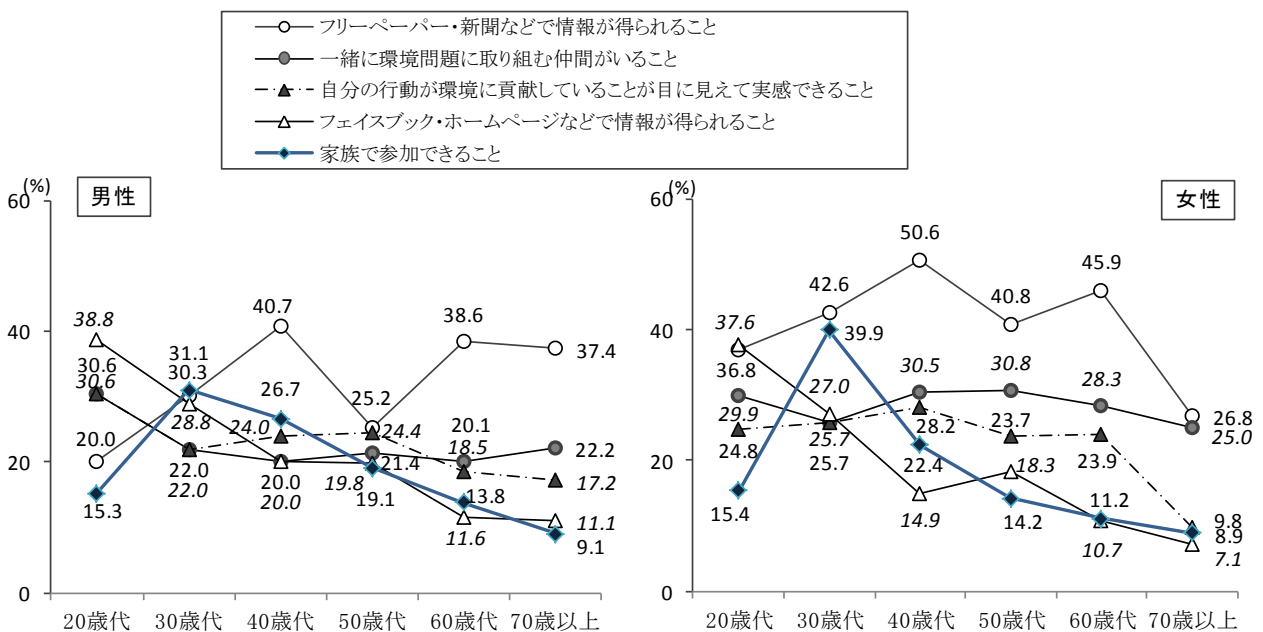
20歳代では「フェイスブック・ホームページなどで情報が得られる」が約4割で最も高い。

問 22 あなたが環境に関するイベントやボランティア活動に参加しやすくするために、どのようなことがあれば良いと思いますか。(あてはまる番号にいくつでも○印)



■ 図3-1 性別・年齢別にみた環境に関する活動に参加しやすくするために必要なこと(上位5項目)

- ◇「フリーペーパー・新聞などで情報が得られること」は40歳代女性で5割と高くなっている。
- ◇「フェイスブック・ホームページなどで情報が得られること」は男女ともに30歳代以下で他の年代と比較して高い。
- ◇「家族で参加できること」は30歳代女性で約4割となっている。



◆属性別特徴

【性別】ほとんどの項目で女性の割合が高く、特に「フリーペーパー・新聞などで情報が得られること」ではその差が大きい。

【年齢別】

- ・「フェイスブック・ホームページなどで情報が得られること」は20歳代で約4割、30歳代でも3割弱と、若い年齢層で多くあげられている。
- ・「幼稚園、保育園、学校などを通じたチラシの配布などで情報が得られること」と「家族で参加できること」は30・40歳代で高く、特に30歳代では3割半ばに上る。

【ブロック別】

- ・「フェイスブック・ホームページなどで情報が得られること」「フリーペーパー・新聞などで情報が得られること」は中央東部で特に高い。
- ・「家族で参加できること」は西部B、南西部で比較的高くなっている。

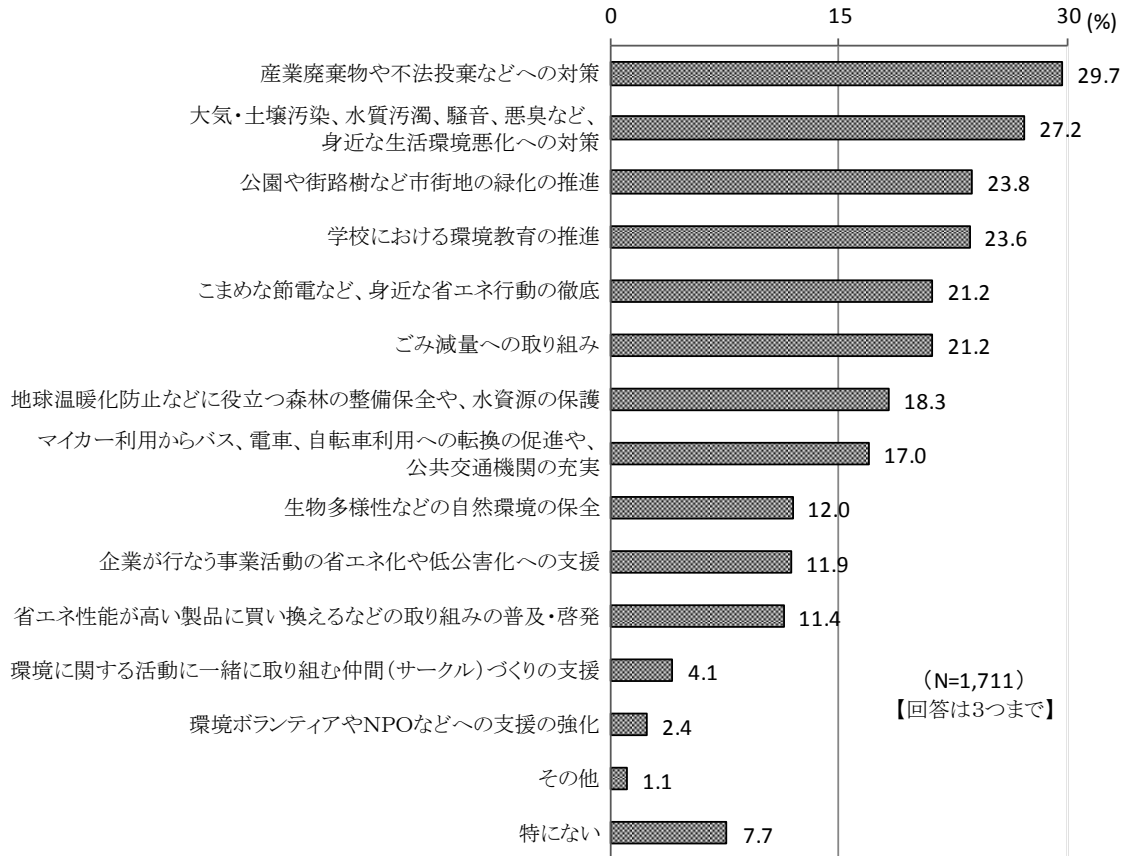
		標本数 (票)	環境に関する活動に参加しやすくするために必要なこと (%)										
			ページ などで 情報が 得られ ること	フェイス ブック などで 情報が 得られ ること	フリー ペーパー などで 情報が 得られ ること	幼稚園、 保育園、 学校など を通じた チラシの 配布など	景品など の特典が あること	家族で 参加でき ること	仲間に 環境問題 に取り組 むこと	一緒に 行動が 目に見 え、環境 に貢献し たいこと	その他	特にな い	無回 答
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,711)	19.3 (331)	37.9 (648)	16.4 (280)	15.4 (263)	19.1 (327)	25.5 (437)	22.9 (391)	1.1 (18)	20.3 (347)	3.8 (65)	
性別	男性	786	20.4	33.2	13.1	14.2	19.6	22.0	22.3	1.1	23.0	4.1	
	女性	925	18.5	41.8	19.1	16.3	18.7	28.5	23.4	1.0	17.9	3.6	
年齢別	20歳代	202	38.1	29.7	10.9	25.7	15.3	30.2	27.2	2.0	18.3	1.0	
	30歳代	280	27.9	36.8	36.1	22.5	35.7	23.9	23.9	0.7	15.4	2.1	
	40歳代	324	17.3	46.0	26.2	21.0	24.4	25.6	26.2	1.2	13.3	2.5	
	50歳代	300	19.0	34.0	10.0	14.0	16.3	26.7	24.0	1.3	22.7	2.0	
	60歳代	394	11.2	42.4	7.4	6.6	12.4	24.4	21.3	0.3	24.6	5.3	
	70歳以上	211	9.0	31.8	6.2	5.7	9.0	23.7	13.3	1.4	28.0	10.4	
	性別× 年齢別	男性:20歳代	85	38.8	20.0	8.2	23.5	15.3	30.6	30.6	3.5	21.2	1.2
男性:30歳代		132	28.8	30.3	23.5	21.2	31.1	22.0	22.0	1.5	20.5	3.0	
男性:40歳代		150	20.0	40.7	19.3	16.7	26.7	20.0	24.0	0.7	19.3	2.0	
男性:50歳代		131	19.8	25.2	10.7	17.6	19.1	21.4	24.4	0.8	26.0	0.8	
男性:60歳代		189	11.6	38.6	9.0	6.3	13.8	20.1	18.5	0.5	28.0	5.3	
男性:70歳以上		99	11.1	37.4	5.1	4.0	9.1	22.2	17.2	1.0	20.2	13.1	
女性:20歳代		117	37.6	36.8	12.8	27.4	15.4	29.9	24.8	0.9	16.2	0.9	
女性:30歳代		148	27.0	42.6	47.3	23.6	39.9	25.7	25.7	-	10.8	1.4	
女性:40歳代		174	14.9	50.6	32.2	24.7	22.4	30.5	28.2	1.7	8.0	2.9	
女性:50歳代		169	18.3	40.8	9.5	11.2	14.2	30.8	23.7	1.8	20.1	3.0	
女性:60歳代		205	10.7	45.9	5.9	6.8	11.2	28.3	23.9	-	21.5	5.4	
女性:70歳以上		112	7.1	26.8	7.1	7.1	8.9	25.0	9.8	1.8	34.8	8.0	
ブ ロ ッ ク 別		東部A	122	19.7	33.6	15.6	14.8	18.9	24.6	21.3	2.5	18.0	5.7
		東部B(田主丸)	109	17.4	32.1	16.5	19.3	17.4	27.5	20.2	0.9	20.2	5.5
	北部A	156	16.0	42.9	17.9	15.4	17.3	25.0	18.6	3.2	22.4	2.6	
	北部B(北野)	107	16.8	34.6	19.6	10.3	21.5	28.0	23.4	0.9	21.5	2.8	
	中央東部	210	26.2	49.0	13.8	18.6	21.0	28.1	22.9	1.0	17.1	1.4	
	南東部	176	21.0	40.3	17.0	14.2	18.2	29.0	22.2	-	15.9	3.4	
	中央部	229	18.8	39.7	14.0	15.3	17.9	20.1	23.6	0.4	24.5	5.2	
	中央南部	293	19.1	29.4	14.3	15.7	14.3	24.9	25.3	1.0	23.5	4.8	
	南西部	145	19.3	42.1	21.4	15.2	26.2	26.2	21.4	0.7	17.2	2.1	
	西部A(城島)	68	16.2	32.4	20.6	14.7	17.6	22.1	23.5	1.5	17.6	5.9	
西部B(三瀧)	96	15.6	35.4	16.7	12.5	27.1	27.1	28.1	-	19.8	3.1		



3-4 環境を守るための施策

「産業廃棄物や不法投棄などへの対策」が29.7%で1位。

問 23 あなたは、環境を守るために、久留米市はどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで（2つ以内でもかまいません）選び、番号に○印をつけてください。



◆属性別特徴

【性別】「ごみ減量への取り組み」で女性が男性より5.5ポイント高い。

【年齢別】

- ・「こまめな節電など、身近な省エネ行動の徹底」や「ごみ減量への取り組み」は年齢が上がるほど割合も高くなる傾向にある。
- ・「学校における環境教育の推進」は30歳代で唯一3割を超えている。

【ブロック別】

- ・「産業廃棄物や不法投棄などへの対策」は南東部や東部Aで比較的高い。
- ・「ごみ減量への取り組み」は北部Bでは約3割と高いが、中央東部では1割半ばにとどまっている。
- ・「大気・土壌汚染、水質汚濁、騒音、悪臭など、身近な生活環境悪化への対策」は西部Bでやや高い。
- ・「生物多様性などの自然環境の保全」は中央東部で2割と他のブロックと比較して特に高い。

	標本数(票)	環境を守るために久留米市に力を入れてほしいこと (%)															
		こまめな節電など、身近な省エネ行動の徹底	省エネ性能が高い製品の普及・啓発	学校における環境教育の推進	企業が行なう事業活動の省エネ化や公害化への支援	公共交通機関の充実	マイカー利用からのバス、電車、自転車の利用への転換の促進	公園や街路樹など市街地の緑化の推進	生物多様性などの自然環境の保全	産業廃棄物や不法投棄などへの対策	ごみ減量への取り組み	地球温暖化防止などに役立つ森林の整備	大気・土壌汚染、水質汚濁、騒音、悪臭など、身近な生活環境悪化への対策	環境ボランティアやNPOなどの支援の強化	環境に関する活動に一緒に取り組む仲間(サークル)	その他	特にない
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,711)	21.2 (362)	11.4 (195)	23.6 (403)	11.9 (204)	17.0 (291)	23.8 (407)	12.0 (205)	29.7 (508)	21.2 (362)	18.3 (313)	27.2 (466)	2.4 (41)	4.1 (70)	1.1 (18)	7.7 (131)	2.0 (34)
性別																	
男性	786	20.7	13.0	23.7	11.1	16.8	24.7	13.1	30.2	18.2	16.9	26.1	2.7	3.9	1.4	7.9	1.8
女性	925	21.5	10.1	23.5	12.6	17.2	23.0	11.0	29.3	23.7	19.5	28.2	2.2	4.2	0.8	7.5	2.2
年齢別																	
20歳代	202	15.8	12.4	15.3	12.4	21.3	23.8	14.9	24.3	15.3	18.8	33.2	3.0	4.0	1.0	11.9	0.5
30歳代	280	16.1	15.4	32.5	11.4	16.4	26.1	13.2	27.1	15.7	17.1	26.1	2.9	2.1	1.4	8.2	1.8
40歳代	324	21.6	11.7	26.2	16.0	18.5	27.8	11.4	29.9	21.6	16.7	29.9	1.2	4.0	0.6	4.9	1.9
50歳代	300	21.3	11.0	23.0	13.3	16.3	21.7	13.3	34.7	20.3	21.3	27.3	3.0	5.7	1.0	5.0	1.0
60歳代	394	24.1	9.9	21.3	11.2	14.2	20.8	9.1	33.8	23.6	19.3	26.4	2.0	4.6	0.8	8.1	3.3
70歳以上	211	26.5	8.1	20.4	5.2	17.5	23.2	11.8	23.2	29.9	15.6	20.4	2.8	3.8	1.9	10.0	2.8
ブロック別																	
東部A	122	26.2	15.6	21.3	12.3	12.3	16.4	11.5	34.4	23.0	20.5	21.3	0.8	2.5	1.6	8.2	2.5
東部B(田主丸)	109	19.3	6.4	27.5	8.3	11.9	26.6	10.1	27.5	21.1	21.1	28.4	4.6	3.7	0.9	6.4	2.8
北部A	156	17.9	10.9	28.8	18.6	22.4	15.4	7.1	27.6	23.1	14.7	28.2	1.9	1.3	0.6	10.9	2.6
北部B(北野)	107	21.5	11.2	19.6	15.0	18.7	20.6	10.3	29.0	29.9	18.7	24.3	-	7.5	-	7.5	0.9
中央東部	210	24.3	11.4	24.3	10.5	15.7	27.6	20.0	27.6	16.2	16.7	29.5	1.9	3.8	2.4	5.2	1.9
南東部	176	18.2	11.4	19.9	11.4	14.2	27.8	9.7	35.8	25.0	17.0	25.6	4.5	4.5	0.6	9.1	1.1
中央部	229	19.2	10.9	24.9	15.3	12.7	25.3	14.4	29.7	20.1	18.8	30.6	2.6	3.5	1.3	8.3	0.9
中央南部	293	21.8	10.9	21.2	11.6	21.5	28.7	9.9	25.9	19.5	20.8	25.3	3.1	4.4	1.4	6.5	3.4
南西部	145	20.0	10.3	26.2	8.3	18.6	22.8	17.2	30.3	20.0	18.6	25.5	0.7	3.4	0.7	8.3	0.7
西部A(城島)	68	19.1	11.8	20.6	8.8	23.5	14.7	4.4	30.9	22.1	11.8	27.9	1.5	5.9	-	8.8	2.9
西部B(三瀨)	96	26.0	16.7	25.0	6.3	15.6	20.8	9.4	33.3	18.8	18.8	33.3	3.1	7.3	-	6.3	2.1

考察 — 環境 —

- 「里山や農地、森林」「公園や街路樹」の緑の豊かさの環境への満足度は8割以上と高い。景観やごみ処理、公共交通の使いやすさなど日常生活と結びつきが強い環境要因は、市の住みやすさに関する評価と直結しやすい。

久留米市の環境についての市民の満足度をみると、「里山や農地、森林などの緑の豊かさ」「公園や街路樹などの緑の豊かさ」について、『満足』がそれぞれ8割を超えて高くなっている。その他、「ごみ処理（資源回収や分別収集など）の状況」が8割弱、「市街地と自然のバランス」が7割強と高い評価となっている。その他のすべての項目についても『満足』が5割を超えているが、その中で比較的低い評価となっているのは「大気や騒音、振動などの状況」「川などの水質の状況」である。緑の豊かさへの評価が高い一方で、環境汚染の状況については相対的に満足度が低くなっている。また、「大気や騒音、振動などの状況」「川などの水質の状況」の2つについては年齢によって満足度に差が出る傾向がみられ、いずれも年齢が低い層ほど満足度が低くなっており、環境汚染の問題に対しては若い層ほど敏感であることがうかがえる。

ブロック別に満足度をみてみると、「大気や騒音、振動などの状況」については、中央南部、中央部、中央東部で『不満』が5割を超えており、市の中心部周辺の地域での満足度が低い。「鉄道やバスなど、公共交通の使いやすさ」は西部A（城島）で『不満』が約8割に上り、満足度が非常に低くなっている。この地域における交通の便に関する不満感は第1章の行政施策に関する項目においても表れており、利便性向上に向けた対策が必要とされている。また、西部A（城島）では「川や池などの水辺の状況」「川などの水質の状況」についても満足度が低くなっている。また、「川などの水質の状況」については西部B（三潴）、中央南部、東部B（田主丸）などでも満足度が低くなっている。これらの地域は、下水道整備の計画の中で、生活排水処理の手法を主に合併浄化槽としている地域であり、合併浄化槽の設置があくまで個人の申請によるものであるため普及が進まず、このような結果につながっていると思われる。

久留米市を住みやすさ別にみると、すべての項目について、「住みにくい」とする人ほど満足度が低くなっている。久留米市を「住みにくい」とする人の満足度が特に低い項目は、「環境教育、環境に関する情報の得やすさ」「街並みなどの景観」「川などの水質の状況」などで、これらは『満足』との回答が3割前後にとどまっている。これらの3つの項目は全体の満足度もそれほど高くない。また、「住みやすい」とする

◆住みやすさ別にみた住まいの周辺環境の満足度

	（標本数）	⑦公園などの緑の豊かさ		⑧里山や農地などの緑の豊かさ		⑨川や池などの水辺の状況		⑩川などの水質の状況		
		満足	不満	満足	不満	満足	不満	満足	不満	
全体 （カッコ内は標本数）	100.0 (1,711)	80.4 (1,376)	17.8 (305)	81.2 (1,390)	15.9 (272)	64.7 (1,108)	32.4 (555)	55.2 (945)	41.3 (706)	
住みやすさ別	住みやすい	1,411	84.0	14.5	83.8	13.5	68.0	29.3	58.5	38.1
	どちらでもない	165	68.5	27.9	71.5	24.8	52.1	44.2	44.8	50.3
	住みにくい	123	55.3	43.9	65.9	32.5	46.3	52.0	33.3	65.0
	無回答	12	83.3	8.3	75.0	-	50.0	33.3	41.7	41.7
		⑪自然の生き物の状況		⑫市街地と自然のバランス		⑬街並みなどの景観		⑭大気や騒音、振動などの状況		
全体 （カッコ内は標本数）	100.0 (1,711)	68.0 (1,163)	28.8 (493)	72.0 (1,232)	25.2 (431)	61.6 (1,055)	35.9 (614)	51.4 (880)	45.8 (784)	
住みやすさ別	住みやすい	1,411	71.1	25.7	76.2	21.1	66.0	31.7	53.8	43.4
	どちらでもない	165	57.0	39.4	57.0	38.8	49.1	47.3	41.2	55.8
	住みにくい	123	49.6	48.8	45.5	53.7	29.3	69.9	38.2	61.0
	無回答	12	41.7	41.7	58.3	25.0	58.3	25.0	50.0	33.3
		⑮公共交通の使いやすさ		⑯ごみ処理の状況		⑰環境に関する情報の得やすさ				
全体 （カッコ内は標本数）	100.0 (1,711)	61.4 (1,050)	36.4 (624)	77.7 (1,329)	20.6 (353)	59.8 (1,023)	36.6 (626)			
住みやすさ別	住みやすい	1,411	65.3	32.7	81.4	17.1	64.3	32.1		
	どちらでもない	165	48.5	48.5	70.3	27.3	46.7	48.5		
	住みにくい	123	35.0	64.2	47.2	51.2	27.6	71.5		
	無回答	12	50.0	33.3	50.0	33.3	41.7	41.7		

人と「住みにくい」とする人とで満足度の違いをみると、「街並みなどの景観」「環境教育、環境に関する情報の得やすさ」「ごみ処理（資源回収や分別収集など）の状況」「市街地と自然のバランス」「鉄道やバスなど、公共交通の使いやすさ」などで特に差が大きい。景観やごみ処理、公共交通の使いやすさなどは日常生活との結びつきが強いため、これらの項目への不満が「住みにくい」との評価と直結しやすいのかもしれない。

●**毎日の生活の中で取り組みやすい「ごみ分別の徹底」「節電・節水」は6割を超え実践している人が多い。「くるめエコ・パートナー」は、取り組みやすい活動が多く、さらに周知を深めることが課題。**

環境を守るために実践していることとしては、「ごみ分別の徹底」「節電や節水」が6割台と高く、毎日の生活の中で取り組めることが中心となっている。一方、「環境に関する学習会への参加」は1.0%、「くるめエコ・パートナーへの登録」は2.2%、「環境美化などのボランティア活動」は4.7%など、積極的関与が必要とされる活動を実践している人は少ない。くるめエコ・パートナーへの登録自体はさほど手間のかかるものではないが、認知が広がっていない可能性がある。しかし、「特に何もしていない」と回答した人および無回答を除くと、92.8%の回答者が環境のために何らかの取り組みを実践していることになる。選択肢にあるマイバッグの利用や節電、エコドライブの実践などはくるめエコ・パートナーのエコ活動項目にも含まれるものであり、登録はしていなくてもエコ活動を日常的に行っている人は多い。くるめエコ・パートナー事業は、自身の行動が地球温暖化防止や環境保全に貢献しているという意識を高めることが期待できるため、今後も積極的な推進が望まれる。

子どもの状況別にみると、「くるめエコ・パートナーへの登録」は世帯の中に小学生または中学生がいる世帯でやや高くなっている。

また、環境に関する活動に参加しやすくするためにあればいいこととして、世帯の中に小学生以下の子どもがいる人では「幼稚園、保育園、学校などを通じたチラシの配布などで情報が得られること」「家族で参加できること」が高くなっており、子どもも一緒に実践できる取り組みが求められているといえる。くるめエコ・パートナーへの登録は小学生から可能であり、また、家族で協力して取り組める内容となっているため、幼稚園や保育園、学校等と連携しながら認知度を高めたい。

環境を守るために実践していることを、問5の環境に配慮した取り組みをしているかどうか別にみてる。当然予想できる結果ではあるが、いずれの項目も「少し不便を感じるがあっても積極的に取り組んでいる」とする人ほど取り組んでいる割合が高くなっている。また、上位項目はどの層も全体の結果と同様、「ごみ分別の徹底」「節電や節水」「マイバッグ・マイボトルの利用や詰め替え商品の購入などによるごみの減量」となっている。このうち、「ごみ分別の徹底」「節電や節水」については、「少し不便を感じるがあっても積極的に取り組んでいる」とする人と「生活に不便のない範囲で取り組んでいる」とする人との差は比較的小さく、10ポイント程度の差にとどまっている。「ごみ分別の徹底」「節電や節水」については、「不便のない範囲」と考えられているようである。一方、回答率が高い項目のうち、「マイバッグ・マイボトルの利用や詰め替え商品の購入などによるごみの減量」「エコドライブの実践（アイドリングストップ、加減速の少ない運転、早めのアクセルオフなど）」「草花や木を植えるなどの緑化」などは、二者間の差がやや大きくなる。毎日の生活の中で取り組めることで、特に家庭の内部で取り組めるこ



とほど実践しやすいと感じられているものと思われる、これらの取り組みをさらに進めるとともに、買い物先等、家の外での取り組みを促進したい。また、「くるめエコ・パートナーへの登録」は、「少し不便を感じるがあっても積極的に取り組んでいる」とする人でも5%程度にとどまっております、やはり十分に周知されていない状況がうかがえる。

◆子どもの状況別、環境に配慮した取り組みの状況別にみた環境を守るために実践していること

(%)

	標本数(票)	リソーシングエネルギーの活用	太陽光発電の導入など	購入省エネ家電など、エネルギー消費の少ない商品の購入	節電や節水	マイバッグ・マイボトルの購入	利用や詰め替え商品の購入	エコマーク商品やリサイクル製品の購入	ごみ分別の徹底	に努めること	マイカー利用を控え、バス、電車、自転車の利用	のアクセルオフなど	加減速の少ない運転、早めのアクセルオフなど	エコドライブの実践(アイドリングストップ、燃費の少ない運転)	への登録	くるめエコ・パートナー	用したカーテン(植物を利)	緑化	草花や木を植えるなどの	環境美化などのポラン	参加	環境に関する学習会への	その他	特に何もしていない	無回答	
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,711)	10.9 (187)	38.4 (657)	64.9 (1,111)	56.1 (960)	10.7 (183)	68.5 (1,172)	12.9 (221)	27.4 (469)	2.2 (38)	12.3 (211)	31.6 (540)	4.7 (81)	1.0 (17)	0.9 (15)	6.3 (107)	1.0 (17)									
子どもの状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	236	18.2	44.9	67.4	63.6	10.2	64.0	4.7	30.1	3.0	10.2	26.3	4.2	1.3	1.7	5.5	0.4								
	世帯の中に小学生がいる	233	17.2	38.2	66.5	65.2	10.7	68.2	8.2	32.6	4.7	12.4	32.6	8.6	1.7	2.1	3.4	0.4								
	世帯の中に中学生がいる	150	14.0	43.3	64.0	65.3	12.7	70.0	10.7	34.0	8.0	13.3	30.0	6.0	1.3	2.0	6.0	0.7								
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	182	14.8	40.1	62.1	60.4	14.8	65.4	11.5	33.5	2.7	11.5	28.0	2.7	0.5	-	6.6	1.6								
	世帯に上記にあてはまる人はいない	1,147	8.7	37.1	64.7	53.9	10.2	69.4	15.0	25.5	1.5	13.0	33.9	4.5	1.0	0.8	6.5	1.1								
無回答	6	16.7	16.7	66.7	50.0	16.7	66.7	33.3	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-								
環境に配慮した取り組みの状況別	少し不便を感じるがあっても積極的に取り組んでいる	207	14.5	55.6	79.2	74.9	20.8	83.6	21.7	44.4	5.3	24.2	52.2	9.7	3.9	3.4	1.4	1.0								
	生活に不便のない範囲で取り組んでいる	1,133	11.9	42.5	69.5	59.2	10.2	73.0	12.2	29.5	2.3	11.8	32.0	4.9	0.6	0.6	2.3	0.7								
	取り組んでいない	343	5.5	15.5	41.7	36.2	6.1	45.5	9.9	11.4	0.3	7.0	17.5	1.2	0.6	0.3	21.9	1.7								
無回答	28	10.7	28.6	57.1	35.7	14.3	57.1	14.3	14.3	-	-	10.7	32.1	3.6	-	10.7	3.6									

●「フリーペーパーや新聞」「フェイスブックやホームページ」など環境に関する情報発信の組み合わせや発信方法の工夫で、環境活動での参加しやすさが向上。自身の行動が環境保全に貢献しているという認識を高めることが、エコ活動の推進につながる。

環境に関する活動に参加しやすくするためにあればいいことについては、属性によって回答傾向が大きく異なる。全体では第1位であった「フリーペーパー・新聞などで情報が得られること」は20歳代男性では2割で第5位となっており、「フェイスブック・ホームページなどで情報が得られること」が4割弱で第1位となっている。「フェイスブック・ホームページなどで情報が得られること」は20歳代女性でも4割弱で第1位となっている。20歳代は環境を守るための実践について「特に何もしていない」との回答が比較的高いが、インターネットを活用した情報提供や啓発に力を入れることで、より関心を高められる可能性はある。ただし、第6章でみるように、20歳代はインターネットの利用率に比して久留米市のホームページを見たことがあるという割合が低い層である。インターネットはそれぞれの関心に応じて能動的に情報を取りに行く側面が強いため、いかに最初の情報にアクセスしてもらうかを検討する必要があるだろう。

問5の環境に配慮した取り組みをしているかどうか別および問8の市民活動に参加したいと思うか別にみると、現在取り組みをしていない層、市民活動に参加したいと思っていない層では、残念ながら「特にない」という回答が多くなっている。これらの層ではそれ以外の項目も回答率が低くなっており、そもそも環境問題や市民活動への関心が薄い人に行動を促すことはなかなか困難であると思われる。そんな中、「景品などの特典があること」については相対的に回答率が高くなっており、なにかしらの特典を設けることで、関心を持ってもらえるようになることは多少期待できるかもしれない。一方、現在積極的に取り組んでいる層や、市民活動への参加意向が

強い層では、「一緒に環境問題に取り組む仲間がいること」「自分の行動が環境に貢献していることが目に見えて実感できること」などが高くなっており、環境問題への取り組みを通じたネットワークの形成や、環境への貢献のみえる化などを促進することで、より取り組む意欲を醸成できるのではないだろうか。

◆子どもの状況別、環境に配慮した取り組みの状況別、市民活動への参加希望別にみた環境に関する活動に参加しやすくするために必要なこと

		標本数(票)	得られること	フェイスブック・ホームページなどで情報が得られること	フリーページ・新聞などで情報が得られること	幼稚園・保育園・学校などを通じたチラシの配布	景品などの特典があること	家族で参加できること	一緒に環境問題に取り組む仲間がいること	見えて実感できること	自分の行動が環境に貢献していることが目に	その他	特にな	無回答
		(票)	(票)	(票)	(票)	(票)	(票)	(票)	(票)	(票)	(票)	(票)	(票)	(票)
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,711)	19.3 (331)	37.9 (648)	16.4 (280)	15.4 (263)	19.1 (327)	25.5 (437)	22.9 (391)	1.1 (18)	20.3 (347)	3.8 (65)		
子どもの状況別	世帯の中に就学前の子どもがいる	236	28.0	39.0	49.6	25.0	48.7	22.0	23.3	0.8	11.4	1.3		
	世帯の中に小学生がいる	233	21.9	33.5	52.4	24.0	41.2	18.5	22.7	1.3	12.0	2.1		
	世帯の中に中学生がいる	150	15.3	40.0	34.0	22.7	27.3	27.3	30.0	0.7	14.0	3.3		
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	182	21.4	39.0	26.9	22.5	20.3	24.7	26.4	0.5	13.2	6.6		
	世帯に上記にあてはまる人はいない 無回答	1,147 6	17.8 16.7	38.1 16.7	5.1 16.7	12.1 -	11.7 -	- -	- -	22.2 16.7	1.0 -	23.8 33.3	4.3 -	
環境に配慮した取り組みの状況別	少し不便を感じるがあっても積極的に取り組んでいる	207	18.8	43.0	19.3	13.0	22.2	34.8	30.0	1.4	12.6	3.9		
	生活に不便のない範囲で取り組んでいる	1,133	20.8	41.0	17.9	16.4	21.7	27.9	24.0	1.1	15.1	3.4		
	取り組んでいない	343	15.7	25.7	9.6	13.4	9.3	14.0	15.7	0.6	41.1	4.1		
	無回答	28	7.1	21.4	14.3	14.3	10.7	3.6	10.7	-	32.1	17.9		
市民活動に参加しやすかた動別に	そう思う	238	25.2	47.5	22.3	10.9	28.2	40.8	30.3	2.1	5.9	4.2		
	どちらかといえばそう思う	637	22.4	47.4	20.9	15.9	22.6	30.3	27.2	1.1	9.6	2.8		
	どちらかといえばそう思わない	503	19.9	33.0	14.3	18.5	16.9	21.5	19.9	0.8	24.3	3.4		
	そう思わない	308	8.8	20.5	6.5	13.3	8.8	11.4	13.6	0.6	46.8	4.5		
	無回答	25	4.0	16.0	8.0	8.0	16.0	16.0	16.0	-	24.0	24.0		

●市への要望では「産業廃棄物や不法投棄対策」「大気・土壌汚染、水質汚濁など身近な生活環境悪化への対策」が高い。市の環境問題と並行して地域ごとの課題を把握して対処していくことが望まれる。

環境を守るために久留米市が取り組むべき施策を複数回答でたずねたところ、「産業廃棄物や不法投棄などへの対策」「大気・土壌汚染、水質汚濁、騒音、悪臭など、身近な生活環境悪化への対策」が3割弱で上位にあがっている。久留米市の環境についてたずねた設問で、満足度が低かった項目に関連する施策が求められているといえる。その他、「公園や街路樹など市街地の緑化の推進」「学校における環境教育の推進」「こまめな節電など、身近な省エネ行動の徹底」「ごみ減量への取り組み」などが2割を超えており、地球温暖化や生物多様性などの地球規模での環境問題よりは、日常生活との関連が深い問題への施策への関心が高いようである。

年齢別にみると、上位にあがっている項目にそれほど大きな違いはないものの、年齢が高い層では「こまめな節電など、身近な省エネ行動の徹底」「ごみ減量への取り組み」といった日常生活の中での取り組みの推進がやや高くなっている。また、30歳代では「学校における環境教育の推進」が32.5%で第1位となっており、ここでも子どもを対象とした取り組みが求められている。



ブロック別でも上位項目は似通っており、特に「産業廃棄物や不法投棄などへの対策」「大気・土壌汚染、水質汚濁、騒音、悪臭など、身近な生活環境悪化への対策」は東部Aを除くすべてのブロックで第3位までに入っている。その一方、地域によって必要とされている取り組みに違いがみられる場合もある。北部Aでは「学校における環境教育の推進」が、北部B（北野）では「ごみ減量への取り組み」が、中央南部では「公園や街路樹など市街地の緑化の推進」がそれぞれ第1位となっている。また、西部A（城島）では「マイカー利用からバス、電車、自転車利用への転換の促進や公共交通機関の充実」が第3位に入っており、ここでもやはり交通に関する項目があがっている。久留米市は、県内第5位の面積の中に都市部と農村部が混在する都市である。市全体としての環境問題の取り組みはもちろん重要であるが、それと並行して市街地での緑化の推進、農村部での合併浄化槽の設置促進や公共交通機関の整備など、地域の課題を適切に把握し、対処して行くことが望まれる。

◆環境を守るために久留米市に力を入れてほしいこと
(ブロック別にみた順位)

	全体	東部A	東部B 田主丸	北部A	北部B 北野	中央東部	南東部	中央部	中央南部	南西部	西部A 城島	西部B 三瀬
産業廃棄物や不法投棄などへの対策	1	1	2	3	2	2	1	2	2	1	1	1
大気・土壌汚染、水質汚濁、騒音、悪臭など、身近な生活環境悪化への対策	2	4	1	2	3	1	3	1	3	3	2	1
公園や街路樹など市街地の緑化の推進	3	7	4	8	5	2	2	3	1	4	7	5
学校における環境教育の推進	4	4	2	1	6	4	5	4	6	2	5	4
こまめな節電など、身近な省エネ行動の徹底	5	2	7	7	4	4	6	6	4	5	6	3
ごみ減量への取り組み	6	3	5	4	1	8	4	5	8	5	4	6
地球温暖化防止などに役立つ森林の整備保全や、水資源の保護	7	6	5	9	7	7	7	7	7	7	8	6
マイカー利用からバス、電車、自転車利用への転換の促進や公共交通機関の充実	8	9	8	5	7	9	8	10	5	7	3	9
生物多様性などの自然環境の保全	9	11	9	11	11	6	11	9	11	9	12	10
企業が行なう事業活動の省エネ化や低公害化への支援	10	9	10	6	9	11	9	8	9	11	10	12
省エネ性能が高い製品に買い換えるなどの取り組みの普及・啓発	11	8	11	10	10	10	9	11	10	10	8	8
環境に関する活動と一緒に取り組む仲間(サークル)づくりの支援	12	12	13	13	12	12	12	12	12	12	11	11
環境ボランティアやNPOなどへの支援の強化	13	13	12	12	13	13	12	13	13	13	13	13

(分析者 武藤桐子)